

庄司興業所 (八戸)

挑 志

県内企業

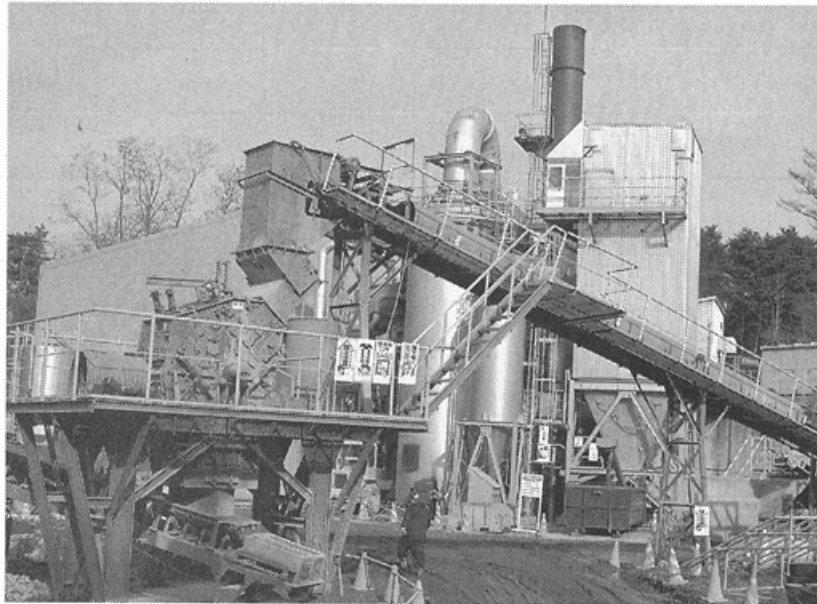
86

産業廃棄物の収集運搬・処理を中心に、一般廃棄物の収集運搬、建物解体や土木建築工事まで、幅広く事業を展開する庄司興業所(八戸市)。中間処理などの事業を通じて廃棄物のリサイクルを進めるのに加え、機材には大気汚染物質の排出量が少ない新型機種を導入。業務と使用機材の両面から、環境負荷低減に努めてきた。

経営理念に掲げた「将来の子どもたちに残せる自然環境を守りながら、地域社会に貢献」という理念を、八戸市内四方所の拠点すべてで共有している。庄司興業社長(四〇)は「道路沿いや現場周辺もともと、トラックの環境負荷を少なくし、の価格は大型で千数百万円、解体用重機は一千万円以上と高価だ。近年は、排出ガス対策の義務化に伴い、価格がさらに高くなっており、多くの業者は新型車両や重機の導入・更新を敬遠しがちだ。低排出ガス車を導入するが同社は、国土交通省が認定する「低排出ガス認定車」を積極的に導入。現在は、軽トラックから二十五トンの重機まで計四十七台の廃棄物の収集運搬トラックのうち、十一台が低排出ガス車となった。

「将来の子どもたちに残せる自然環境を守りながら、地域社会に貢献」という理念を、八戸市内四方所の拠点すべてで共有している。庄司興業社長(四〇)は「道路沿いや現場周辺もともと、トラックの環境負荷を少なくし、の価格は大型で千数百万円、解体用重機は一千万円以上と高価だ。近年は、排出ガス対策の義務化に伴い、価格がさらに高くなっており、多くの業者は新型車両や重機の導入・更新を敬遠しがちだ。低排出ガス車を導入するが同社は、国土交通省が認定する「低排出ガス認定車」を積極的に導入。現在は、軽トラックから二十五トンの重機まで計四十七台の廃棄物の収集運搬トラックのうち、十一台が低排出ガス車となった。

先進的な産廃処理実践



「はちのへエコ大賞」奨励賞を受賞した。主力の産業廃棄物部門の一つ、中間処理施設(八戸市櫛引長平)では、焼却炉とコンクリート破砕施設、木材再資源化施設などを備える。大半が再資源化最終処分に戻るの投入

環境負荷の低減に努力

持ち込まれた建築廃材など産業廃棄物は、直径四センチのコンクリート砕石や木材チップに生まれ変わり、道路・土木工事、工場のボイラー燃料などに利用される。大半が再資源化最終処分に戻るの投入



ISO14001認証を取得している、中間処理施設内のコンクリート破砕施設(写真上)。「環境を守るには、最も、川下で仕事する私たち廃棄物処理業の取り組みが重要」と語る庄司社長(写真左)

トラックと三種の収集車でのISO9001をの配置が鍵を握る。八戸市内で初めて取得民からの依頼電話を基に、多くの分野に、迅速な収集に向けて積極的に取り組んでいる。

県産業廃棄物協会や県解体工事業協会の副会長などを務め、多忙な毎日を送る庄司社長。「環境を守るための対策は、急に成果が出るわけではない。だが次世代のために、できることを着実に積み重ねていきたい」と力強く語る。

×E

1972年2月に設立し同年5月、八戸市の不燃ごみ収集運搬委託業務を開始。97年、同市櫛引長平に産業廃棄物中興センターの電子マニフェストに加入登録。02年、焼却施設のタイオキシン対策工事が完了。05年に土木・解体工事でISO9001を、06年には産廃中間処理施設など3カ所がISO14001を取得した。従業員80人。本社は同市一番町二丁目9の8、電話0178-13220。